

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	高砂市役所	階数	地上4F
建設地	兵庫県高砂市荒井町千鳥1丁目27番	構造	S造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	573 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,346 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年10月 予定	評価の実施日	2018年5月21日
敷地面積	15908.72 m ²	作成者	中村文紀
建築面積	3829.07 m ²	確認日	201●年●月●日
延床面積	11839.78 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.3

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 建物形状は夏の風の通りみちに曲面形状とし、風環境に配慮している。また外装として引違い窓の横連窓と周囲に巡らし、操作性のよい建具で自由に自然通風を確保でき、職員の方々が快適な執務環境を作りやすい計画としている。		その他 特になし
Q1 室内環境 中間期は上記の通り、極力空調を使用しないように努め省エネルギー化を図り、その他の季節も、居住域のみ空調する床吹空調やベリメーターゾーンとインテリアゾーンの空調を別系統にするなど、快適な環境を創出します	Q2 サービス性能 常時の休憩室やリフレッシュスペースの確保はもとより、災害時に庁舎が通常通り機能できるように、免震構造とするとともに、十分な容量の非常用発電機や雑用水槽、排水槽を建物側に設け、安全安心な庁舎を実現します。	Q3 室外環境(敷地内) 外部空間はバス停留所・駐車場から庁舎まで等の主要な動線部分にはキャンピョーを建設し、雨掛りなく庁舎へアクセスできるように計画しています。 また、高砂市の特徴である竜山石を外構のベンチなどに
LR1 エネルギー 横連窓で窓が多い建物であるため、建築外皮の熱負荷はBPI _m =0.91で少々負荷が大きいですが、その分エネルギー消費量の小さい計画(BEIm=0.72)としている。	LR2 資源・マテリアル 既存建物の杭を液状化対策として積極的に利活用することにより、廃棄物の縮減を図った。	LR3 敷地外環境 現状より多い、かつ適正な駐車台数で計画するとともに、食堂の運搬車両やごみ回収車両のスペース・動線を明確に区分し確保している。 ごみの分別は細かく行い、有価物回収できるような運用としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される